

ORIENTEERING JAPAN

O JAPAN

Navigation across Country

'95 / 7

1995年 [平成7年] 7月10日発行

(毎月1回10日発行)

第12巻第7号通巻第144号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



赤城

第17回東大OLK大会
1995/6/4(Sun)

救護所
給水所
立入禁止
緊急連絡先



群馬県勢多郡赤城村

赤城村総合運動自然公園
Tel. 0279-56-8840

縮尺 1 : 15,000
等高線間隔 5m

⑫ M60A, M15A, W50A		4,400		160	
▷		↘	↙	2.5x 15	○
1	206	↘	↙		
2	218	↘	↙		
3	221	↘	↙		
4	247	←	↘	15x 1	○
5	249	○			⊥
6	251	↘	↙		
7	254	↘	↙		
8	M1	↘	↙		⊥
○		240		○	



TOKYO
UNIVERSITY
24
1988
12
8000

調査地図
赤城村役場「赤城村平面図(1・2)」
調査期間 1994年2月~1995年5月

- 調査者
- | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|------------|
| 大野 洋一 | 高橋哲一 | 田嶋 博 | 空村 卓 | CONTROLLER |
| 野上 健士 | 藤沢 秀孝 | 山本 康徳 | 中尾あずさ | |
| 北本 敬雄 | 三浦 博代 | 船津 謙 | 志位 夏弘 | PLANNER |
| 大塚 武之 | 小田井正徳 | 松原 英文 | 小南 立隆 | |
| 新井 廣河 | 土橋 裕希 | 道山 文徳 | 長谷川弘幸 | |
| 新井俊一郎 | 山崎 聡 | 山本 敬夫 | 西條 隆 | |
| 池田有紀子 | 船津 聡子 | 大野真穂子 | 大矢 静子 | |
| 野村 純子 | 田島真紀子 | 高田真美子 | 織田 千夏 | |
| 井出 伸史 | 上野 悠真 | 大久保真樹 | 北川 知樹 | |
| 近藤 武次 | 佐野 拓夫 | 藤 洋樹 | 山崎 弘樹 | |
| 藤井 健行 | | | | |
- 調査協力
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 後藤 士郎 | 小林 健成 | 中村 剛雄 | 山口 晋世 |
| 青木 孝徳 | 大畑 有子 | 金子 夏美 | 浅山山知子 |
| 込藤 真隆 | 佐藤 裕子 | 土田ゆかり | 成島 麗子 |
| 北村 心 | 竹園有紀子 | | |
- 調査協力
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 渡谷 智弘 | 藤原 典典 | 山元 真 | 植野真佳子 |
| 野村真穂子 | 尾形 雅典 | 松上真一郎 | 藤田 詩子 |
| 野村 純 | 堀尾 由希 | 大塚 紀子 | 藤 孝子 |
| 金子 正紀 | 藤 真志 | 中嶋 知真 | 平野 野鳥 |
| 光岡 翠子 | | | |
- 作成協力
- | | | | |
|-------|-------|-----|-------|
| 文田 真弘 | 中尾あずさ | 堀 康 | 松本 敬雄 |
|-------|-------|-----|-------|
- 作成者
- | | |
|-------|-------|
| 成田 千夏 | 新井俊一郎 |
|-------|-------|
- 作成協力
- | | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 大井 隆 | 野上 健士 | 小田井正徳 | 金子 夏美 |
|------|-------|-------|-------|
- 監修
- | |
|------|
| 藤 昌史 |
|------|
- 監製 R.M.O.サービス/田 崎 伸武雄

Chisato H. Shiro Bando

GUMMA JAPAN

<p>—— 主要道路</p> <p>—— 道路</p> <p>—— 堤</p> <p>—— 小堤</p> <p>—— 小堤</p> <p>—— はっきりしない小堤</p> <p>—— ハイプライン</p> <p>—— 橋 (通行不可)</p> <p>—— 橋 (明確、明確)</p> <p>—— 通行不能のけし</p> <p>—— 通行可能のけし (土)</p>	<p>● 乾いた溝</p> <p>● 穴</p> <p>● 凹地 (大、小)</p> <p>● 溜池、ビニールハウス</p> <p>● 窪みなど、狭い溜池</p> <p>● 高、高地</p> <p>● 溝 (大、小)、遊歩</p> <p>● 川、せき</p> <p>● 準防的水路・溜池</p> <p>● 池 (大、小)</p> <p>● 井戸、貯水罐</p>	<p>□ クリアリング</p> <p>□ 農家の敷地 (立入禁止)</p> <p>□ 立入禁止の開けた土地</p> <p>□ 立入可能の開けた土地</p> <p>□ 農圃</p> <p>□ 雑草地、荒地、伐採地</p> <p>□ 通行可能</p> <p>□ 歩行可能</p> <p>□ 通行困難</p> <p>□ 倒木帯</p> <p>□ 常時立入禁止区域</p>
---	--	--



■今月の表紙：WOC95選考会第2戦
 (5/28)、トップ通過を果た
 した田島利佳選手のゴール。

【撮影：桐田 幸宏氏】

■今月の地図[26-7]：平成7年6月4日、
 群馬県赤城村で開かれた、「第
 17回東大OLK大会」M60Aの
 のコース図。

【提供：上林 弘敏氏】

＝ SQUAD REPORT ＝ 報告・桐田 幸宏 … 4-9

- 95年度強化指定選手紹介
- SQUAD賛助会員募集&ビデオのご紹介
- WOC95日本代表選手決定
 加賀屋・鈴木康・田島・金田 初の代表選手に
 —代表選手の抱負—

＝ The Orienteering World's Scape ＝ 村越 真 … 10-11

- 熊との遭遇
- JOA 中・長期計画について
- オリエンテーリング・フェスティバル '95 in 静岡
- 静岡県ウィークエンドチャレンジ

＝ お知らせのページ ＝ … 12

- 平成7年度東日本OL大会
- 埼玉県オリエンテーリング協会からお知らせ
- 編集部より



EDITOR'S COLUMN

7月。盆の入りをして前にして私の家の属している寺から送られてくるパンフレットに目を通していたら、次のような一文があった。

『山に登るとき、登山道をわき目もふらずに黙々と歩き、頂上にあたって、ああ、すばらしい眺めだな、と感じるものけっこうです。しかし、その頂上の眺望を見るためだけの目的で登るとするならば、果たして本当に山のよさを体験しているといえるのでしょうか。山頂があいにく曇ってしまっていたらどうでしょう。天候の急変で途中で引き返さざるをえない場合はどうでしょう。その場合の登山はまったく無駄な時間つぶしであったことになります。』

しかし、その途中一歩一歩踏みしめているときに展開される大自然の風景、清純な空気、仲間たちと協力して困難を克服しながら流す汗、そういった途中で繰り広げられるさまざまなことがむしろ登山の醍醐味であり、登頂はその後についてくるものだと思うのです。

いつのことであつたでしょうか、エベレストに日本登山隊が登頂する様子が生中継でテレビに映し出されたのを見ました。登頂成功の映像が入ったとき、ベースキャンプにいたリーダーを始め、みんなが涙に暮れるシーンが忘れられませんが、登頂したのは大勢の隊員のうち、わずかな数名でした。しかし、登頂した者も、下のキャンプに残った者も、みんなと協力しあって達成したそれぞれの涙には、それまでのいろいろな場面で一緒に苦しみ、精進してきた、数々の思いがあつたはずで、登頂したわずかな者だけがその感激を独占したのでは決してなかったのです。』

少し長くなりましたが、駒沢女子短大の安藤嘉則先生が、「禪の友」7月号に書かれている「精進の教え」と題する一文から引用させていただきました。私たちの世界に目を移したとき、「皆で協力し目的を達成すること」は当に『大会運営』がそれではないでしょうか。そして、世界

一の山といえ、やはり『世界選手権』の開催でしょうか。JOA(の一部の人の間?)では、中・長期プランを作成しようという動きがあるようですが、その中にはこの目標は掲げられていないようです。今までもたびたび書かせていただきましたが、目標を掲げ、それに向かっての努力・精進のなかで、真のオリエンティアが育っていくのではないのでしょうか。ここ2~3年、大会の数は漸減してきています。定期的に開いている学生クラブの大会は続いています。参加人数は頭打ち、あるいはこれも減少傾向にあります。不況、良好なテレビの遠隔化、オリエンティアそのものの減少など、いろいろと理由はあるにせよ、大会数の伸び悩みは否めません。JOAは大きな目標を掲げて、そこに到達するまでのスケジュールを明確にすべきです。そのなかに年に1回の複数日・国際大会を組み込むべきです。ワールドカップやヴェテランズ・ワールドカップに限らず、単なる「国際5日間大会」でもよいでしょう。参加者数は少なくともよい、運営人数も最小限、そして「金」をかけない、運営者がコツコツと工夫・努力することによって、中身のある大会を開くこと、JOAがリードしてプランニングすることです。結果として地図作りや運営にも長けた真のオリエンティアを育て、究極の目標に向かっていくことです。あ、まだ生まれたばかりの、といえる中国はもう次回88年(香港統合の年)のAPOC開催を決めているようです。90年開催のカナダは、すでにご案内のとおり「国際5日間大会」を開催します。13か国、170人のカナダ以外の国(アメリカが主とは言え)からの参加があります。こういう大会を、どのように運営するかを見てきて、ご報告します。とにかく、目標を作り、それに向かって「協力」を呼びかけましょう。JOA理事の方々に申し上げているのです。幅広い多数の人々、それぞれの「精進」が大きな成果を生むのではないのでしょうか。

＜流人＞

SQUAD REPORT

WOC SQUAD JAPANは、強化選手のサポートを行っています。

95年度強化指定選手紹介

1995年度のSQUAD強化選手の新規指定(リクルート)や指定解除の手続きが進んでいる。本年度の強化選手は、ひとまず右ページの一覧の通りとなる見込みである。A級・B級・Jrの位置付けについては、SQUAD BULLETIN(SQUAD会員と強化選手に配布される機関誌)5月号に掲載された強化部の記事を転載するので(下記)、ご参照願いたい。

新規指定は、右ページ*印の各選手。B級では男子が利光選手(昨年度エリートポイント最終4位)・元木選手(同12位)・田代選手(同16位)が、女子では酒井選手(同5位)が新規指定されている。利光・元木の両選手は、SQUADの正会員を兼務しての強化指定選手となった。パワフルな人材である。Jrはインカレなどでの活躍も目立っている選手陣である。機会を作って紹介していきたいが、とりあえずインカレの記事でもご参照いただければ幸いである。

大学を卒業し、JrからB級に指定変更となったのは、男子が金田・稲村・植田の各選手である。女子・山口選手はまだ学生であるがB級に昇格した。男子・入江選手、女子・千葉選手・志村選手については入会年度も早く、既にA級もしくはB級強化選手となっていた。松沢選手はインカレ個人戦2位、この春は多摩OL、大阪OLC(公認)の大会で優勝しておりさらなる成長が期待されている。金田選手はインカレ個人戦champ、今年の世界選手権日本代表にも決まった。A級へのステップを踏んで行ってほしい。広島大のOG、稲村・植田の両選手はこの数年インカレでも活躍を続けてきた。今後も中国地方からの活躍に注目である。山口選手は一昨年度のショートインカレchamp、昨年度インカレ個人戦2位、公認大会ではD19-20Eでの連勝を重ね素晴らしい戦績をとどめている。

強化選手指定が解除となったのは、男子が、桜井太郎・田中正人・羽鳥和重・国沢五月・安斎秀樹(以上昨年度B級)・岡安隆史・吉村年史・清谷智弘(以上昨年度Jr)の各選手、女子は、浜田由紀・高木貴美江・長谷川恵子・渡辺初実(以上B級)・山下和子・中野宏美・河合志穂・清宮秀子(以上Jr)の各選手である。

1995年度SQUAD強化選手指定について

強化部 佐藤信彦・広江淳良

95年度の強化選手の指定については、昨年同様エリートポイントの成績を基礎データとして選考を行った。また、学生についてはインカレの成績も参考とした。強化選手はA級、B級、ジュニアの3カテゴリーに分かれるが順に説明する。

A級 日本のトップの実力があると認められる選手

これは、不意の国際競技会があった場合に優先的に日本代表に推薦できる選手である。選考基準としては、エリートポイント上位4位を基本としている。なお、過去においてA級強化選手の資格は、常にトップ級のパフォーマンスを発揮できることといわれたことがあったが、アベレージにこだわるのではなく、大切なレースで結果を出せることがより重要な条件だと考えている。

B級 国際競技会に日本代表として出場を期待できる選手

エリートポイント上位15位以内というのを目安とする。経過措置的に今年度は、男子は16位タイまでを基本とし、世界選手権予備セレクションのポイントも加味した選考とした。ただし、個々の環境(トレーニング環境、刺激の有無等)の違いや、成績の経時的な変化をエリートポイントですべて把握できるわけではない点を考慮し、条件付きで追加指定した場合もある。もちろん上位を目指してもらいたい。

ジュニア 大学生以下相当の年齢で将来有望な者

男子：大学卒業(相当)時にB級に昇格可能なレベルにあると認められる選手

女子：インカレにおいて入賞可能レベルにあると認められる選手

ジュニアの選手の出場クラスは、主としてM(W) 21E、M(W) 21A、M(W) 19-20A(E)である。これらのクラスにおいて同年齢(学年)の選手の中で上位にあると認められる選手を選考した。男子については、エリートポイント対象大会において、H19-20E6位以内2回程度の成績を挙げていることを基準とした。該当クラスがない場合は、相当する成績を勘案した。今年度以降はJOAの競技規則改訂により、19-20Eクラスは全日本大会以外では消滅するので、19-20Aクラスでの相当する成績を基準とすることになる。女子においては、ジュニアの選手層の充実を図ることによって裾野の拡大を目指しており、具体的にはインカレ競技レベルの向上のために、入賞可能レベルにあると認められる選手を基準とした。

しかし、様々な理由により、大会では相対的に目立つレベルの成績はまだ挙げていないけれども有望であるという選手がまだまだいるはずだと我々は考えている。これらの選手については、是非みなさんに推薦していただきたい。コーチはできないけれどという場合でも強化部(男子：佐藤信彦、女子：広江淳良)に知らせていただけるようお願いする。

なお、継続指定の選手をのぞいては、選手本人との相談の上での決定であることを添えておく。

(SQUAD BULLETIN 5月号より)

1995年度強化選手一覧

A	鹿島田浩二 入江 崇	村越 真	木植 早生 金子しのぶ	福士 淑子
B	鈴木 卓弥 富田 吉郎 鈴木 康史 樋口 一志 落合 公也 佐藤 隆徳 *田代 雅之 稲津 隆敏	*利光 良平 加賀屋博文 武田 光 *元木 悟 松沢 俊行 山本 英勝 菅原 琢	*酒井 佳子 田島 利佳 志村 聡子 山口 純子 加納 尚子 植田 佳子	千葉あかね 金並 由香 金田 収子 鈴木夕紀子 稲村 仁美
Jr	山内 亮太 *田井 利弘 *土井 聡 *柿並 義宏 *大西 淳一	*藤城 公久 *野田 健史 *藤咲 芳春 *諏訪 高典 *太田 晃弘	染矢 和子 *山本 康世 大西真理子 林 ゆかり 立花 純子	*片岡由起子 *小山由美子 *原 志保子 中村 正子

*：新規指定選手

SQUAD賛助会員募集 & 選考会ビデオのご案内

先月号でも募集をしたSQUAD賛助会員の申込方法を再掲載いたします。加えて選考会の記録ビデオ（105分）のご案内もいたします。ビデオの収益金は日本代表チームの遠征費用の一部に充てさせていただきます。また購入された方にはSQUAD JAPANの賛助会員として登録させていただき、後日世界選手権の報告書を送付させていただきます。すでに賛助会員として登録された方も是非どうぞ。

1本 3000円以上

申込方法は賛助会員に同じ（下記参照）：ビデオ希望と記入のこと

賛助会員募集（再掲載）

■■■■■■■■■■ 日本代表に応援を ■■■■■■■■■■

今年の世界選手権はドイツの北部の街Lippe周辺で8月14日から20日にかけて行われます。日本代表男女各5名は5月14日と28日に行われる選考レースで決定しました。ここ数年若手の顕著な台頭があり、今年の結果は今まで以上に夢を見せてくれることでしょう。

ところが選手を派遣する費用は、依然として選手自身の負担となっています。そこでスコードでは日本代表選手の金銭面での援助を目的として広く賛助会員を募集します。賛助会費は1口1000円で何口でもかまいません。いただいた賛助会費はすべて日本代表チームの派遣に掛かる費用に使わせていただきます。皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い致します。（賛助会員募集のビラより転載）

おちあいきみや

問合せ先 落合公也（SQUAD賛助会員担当）

TEL 0586-78-6382

登録方法（送金方法） 次のいずれかで

- ・大会会場受け付け（主要大会にて）
- ・郵便振替 口座番号 00160-2-651396
口座名 WOC SQUAD JAPAN
- ・定額小為替、現金書留

下記様式の申込書とともに、郵送ください

〒491 愛知県一宮市大字時之島字大東81

落合方「スコード賛助会員登録係」

ふりがな 氏名			
住所	〒		
電話番号		所属クラブ	
賛助金	□	円	

WOC95日本代表選手決定

加賀屋・鈴木康・田島・金田 初の代表選手に

この8月、ドイツで開催されるWOC95の日本代表選手が、去る5月28日に決定した。当日はセレクションレースの第2戦が行われ、1位の男子・入江選手、女子・田島選手が規定により通過。1戦目とのポイントで、男子・加賀屋選手、女子・金田選手も規定により通過した。残る男女各一人は、ジェネラルマネージャーによりセレクションの結果などを加味された上で、男子・鈴木康史選手、女子・金子選手が選出された。

加賀屋・鈴木・田島・金田の各選手は世界選手権初出場である。ご健闘をお祈りする。

男子

女子

全日本選手権者

第1戦優勝

第2戦優勝

合計順位

ジェネラルマネージャー推薦

鹿島田浩二

村越 真

入江 崇

加賀屋博文

鈴木 康史

木植 早生

福士 淑子

田島 利佳

金子 収子

金子しのぶ

オフィシャル：藤井 範久（ジェネラルマネージャー）

吉田 勉（女子コーチ）

大西真理子（アシスタントマネージャー）

（男子コーチは、村越選手が兼任）

セレクション第2戦成績（5/28 五町田）

【男子】	6500m	↑410m	【女子】	4300m	↑210m
1	入江 崇	51:12	1	田島 利佳	47:13
2	加賀屋博文	53:22	2	金子 収子	52:18
3	鈴木 康史	56:51	3	金並 由香	53:59
4	平井 均	57:00	4	酒井 佳子	54:03
5	利光 良平	57:22	5	田中 裕子	55:43
6	吉田 勉	58:17	6	千葉あかね	56:16
7	元木 悟	59:07	7	金子しのぶ	59:04
8	富田 吉郎	59:35	8	山口 純子	1:01:20
9	鈴木 雄輔	59:56	9	加納 尚子	1:05:07
10	樋口 一志	1:01:32	10	鈴木タ紀子	1:13:28
11	鈴木 卓弥	1:02:45			
12	落合 公也	1:03:52			
13	広江 淳良	1:06:02			
14	菅原 琢	1:06:13			
15	松沢 俊行	1:07:32			
	武田 光	DNF			
	佐藤 隆徳	DNF			

セレクションの第2戦は、一昨年度・群馬インカレのテレイン・五町田において開催された。結果は表のとおりである。

1戦目で上位につけていたのは、男子が利光良平（2位）・鈴木卓弥（3位）、女子が金子しのぶ（2位）・田中裕子（3位）などの選手だった。男子は、加賀屋、利光etcの有力選手が後半のスタートとなっており、最後まで見通しのつかない緊迫したレース展開となった。特に1戦目2位の利光選手が終盤のスタート位置につけていたことで、推薦選手の動向も含めてゴールに注目が集まった。最終的には前回の代表でもあり、インカレchampの入江選手が見事にトップ通過。日本代表としての責務が伺える。全体としても予想以上にハイレベルで、すばらしいセレクション内容となったようだ。

女子は、金子選手が少々不調であったが、田島選手が素晴らしいタイムを出して圧勝。好レースの感涙にむせぶゴール直後の姿が印象的だった。昨年度インカレchampの金子選手もうまくまとめて、順位のポイントで金子・田中選手を抜き代表に決まった。一昨年度インカレ1位・2位の金並・酒井の両選手があとに続いているのが興味深い。

推薦選手も含めた代表選手の発表は、即日、セレクション会場にて行われた。会場にはこれなかった宮川SQUAD代表からのFAX（下記）も読み上げられセレクションは幕を閉じた。

宮川代表のFAX

1995年オリエンテーリング世界選手権日本代表に選考された皆さん、おめでとうございます。代表に決まった皆さんは日本の代表としてふさわしい活躍ができるよう、これから8月までさらに準備を続けてください。代表に選ばれることがあなた方の目標だったわけではありません。一つの通過点を過ぎたにすぎないのだということを強く認識し8月の最終目標に向けて努力を続けてください。

惜しくも選にもれた選手の皆さん、今日からWM97への努力の第一歩が始まりました。2年後のセレクションに向けて、また努力を始めるのではなく、2年3ヵ月後のWMで世界の強敵を倒すのだという高い目標をもってスタートしてほしいと思います。今までの努力も本日のレースも、その時のための積み重ねだと考えて、決して後退することなく努力を続けてください。

そしてサポートスタッフの皆さん、過去のわれわれの経験とノウハウの蓄積を最大限に利用し、将来に向けて確実な進歩となるような結果を残せるよう、よろしくお祈りします。最後になりましたが、本日の運営スタッフの皆さん、ありがとうございました。皆さんの協力で深く感謝するとともに、その力が選手に届くよう、スコードとしてはこれからも活動していきますので、今後ともよろしくお祈り申し上げます。

以上

1995.5.28

スコード代表 宮川達哉



5/28 セレクション1位通過・入江選手のゴール

95年世界選手権選考会を終えて

強化部 村越真

8月に行われる世界選手権に出場する日本代表チームを決定する選考会が5月14日と28日に行われた。選考方法、選考結果についての強化部としての正式の記事は別稿に譲る。本稿では、強化部コーチとしてのコメントである。

前回の世界選手権終了後の報告書で、次回WMの目標はクラシカルで120-130%、ショートで110-120%、リレーで120%を男子の目標に掲げ、そこへのプロセスとして中間年でのワールドカップ、ユニバー等への参加と、WMやWCの次元で日頃のレースを考えることを掲げた。

国内でのレースを見る限り、より多くの選手が目がWMに向き、WMを前提に日頃のレースを行ったり準備するという状況は前回よりもかなり進んだと思う。またWCやユニバーでは、部分的ではあるが、「我々もWM選手だ」と胸を張って言える結果が出始めている。WMへのステップは確実に昇られていると言えるだろう。

男女とも、予想を上回る選考会（2レース目）の結果は、こうしたステップの証でもある。もちろん1レース目の結果に象徴されるように、男女ともナンバー1、2とそれ以下との差は小さくない。男子WM強化選手に対しては全日本時に、「遠征で結果を出している鹿島田や村越との差がなぜ生まれるのか、どこが違うのかを考えることでWMにつながるレースの基盤を作ることが今後の課題である」と指摘した。この課題への取り組み方は女子でも同様である。合宿や普段の練習を通して、この点に取り組んでほしい。

2レース目のショート形式で予想以上の成果が出たことを考えると、この差は、体力的な面、あるいはそれを介した集中力の持続の問題と言えるだろう。五町田のテレインは、見通しも悪く、傾斜も急なので、丁寧で確実な技術が要求される。技術的な面で見ると、トップの選手には、すでに大きな差はないのかもしれない。60分を越える距離で如何に集中力を持続させるか、そしてそのためにどこでミスをしないう程度に手を抜くかを考えた練習・レースが求められる。これはWM選手だけの問題ではなく、強化選手全員で取り組んでもらいたい課題である。

ステップアップしてゆくためには、時には修羅場も必要だ。選ばれた選手とそうでない選手に大きな差はないのかもしれない。だが、惜しくも代表の座を逃した選手は、次回は確実に通過し、そしてWMで結果を出せる選手として選ばれるようになってほしい。

これからチームは3回の合宿や遠征に向けての大会参加を行う。WMで結果を出すためにはチームや個人の努力も必要だが、強化選手の協力も必要である。それは実質的にも精神的にもチームの支えとなるだろう。このブリテンを読んでいる方々のご協力をお願いしたい。

個人的なことだが、前回の遠征では選手とコーチ両方の役割をうまくこなすことは私には難しかった。その反省は今回に生かされると思う。今回は、結果を待つ緊張感を辛いものとしてでなく、きっと楽しめるだろう。

(SQUAD BULLETIN 5月号より)

代表選手の抱負（男子）

鹿島田浩二

村越真

僕がWM代表となるのも3回目、今や若手ではなく立派な中堅選手になってしまった。そして今年は長かった学生生活最後の年でもあり、そういった意味で自分の今までのOL生活に区切りをつける大会である。納得のいくレースをし、社会人として第2のOL人生を歩んだときへの動機付けになるような、今後への可能性を示す結果を出したい。

思ったより世界が近く見えた91年、しかしそこにある隔たりは予想外に大きかった93年。この2年はその「隔たり」越しに見た世界の残像を追いながら少しずつではあるが前に進んできた。そして今年、2年ぶりに見る世界がどのくらい近くに見えるのだろうか、8月のレースが今から楽しみである。

具体的な目標は、クラシカル、ショートディスタンスともに勿論決勝。枠が大きくなった（50人→60人）こともあるし、前回以前に比べればかなり現実的な目標だ。決勝では久しく日本人の到達していない40位を目指したい。また、全日本の時には「大丈夫かなあ」と思われた男子チームであったが、予選会で見られたようなハイレベルなレースをすれば、きっとリレーでも15位は見えるはずだ。今年の男子チームは面白い。

全日本を終えて半月ばかりたったある日、突然、「このままでは終わりがたくない」と思い始めた。それは全日本への挑戦に関してというよりも、世界選手権や国際大会での結果に関してでもあった。実力が均衡している今、カッシーにいつかは負けるだろう。負けたくてまた挑戦すればいいのである。だが、国際大会ではまだまだ納得できる結果は出していない。もっと速く走れるようになるのではないかと。

最初に世界選手権遠征をしたのが14年前の1981年であった。前年ヨーロッパに遠征し、そこそこの成績をとって、ぼくは日本のトップを突っ走り続けた。周囲に人影が全く見えない時にも止まらずに走っていた。だから本当にシビアな競い合いというのは90年代に入るまではほとんど経験がなかったと言える。それがここ数年はカッシーにいつ負けてもおかしくないほどそばを走っていた。また入江を始めとする若い選手たちも育ってきている。昨シーズンは、そんな中での競い合いを十分に楽しみ、時に悔しい思いをし、真剣にどうやって速く走れるかを考えた久しぶりのシーズンであった。

そのプロセスの延長として、頼れる仲間とともに世界選手権を走れるのである。どんなレースになるのか、どんな走りをするのか、まだ十分にイメージがでない。これから2か月かけて、じっくりそれを作っていくつもりである。楽しいレースをするつもりはない。だが、あとで振り返った時、いろいろなものが詰まっていたと思える準備の期間を過ごしたいと思っている。



5/28 トリathlon・加賀屋選手のゴール

加賀屋博文

今回のWMには当然出場するつもりで準備を進めていたので、代表に決まっただけで正直ほっとしました。同時にドイツでの自分のレースがそのまま日本のレベルを示すことになるわけで、そういった責任の重さも感じています。

去年秋のWCで、ドイツではスピードがないと戦えないことを実感して、以来、総力、技術の両面でOrienteeringのスピードupに努めてきました。まだまだミスが多く、レースでの結果はいまいちですが、成果は確実に現われているので、WM本番では日本は村越、鹿島田だけではないということを見せたいと思います。

また、私がリレーを走ることによって不安を抱かれる方も多いと思いますが、前々回のユニバーでは4人の中で一番速かったという実績(?)もありますので、一応海外の4人制リレーには強いということにしておいて下さい。もっともまずはメンバー入りすることが先ですが。

最後に、素晴らしいメンバーと一緒に参加できて非常に嬉しく思っています。これから先、ベストなコンディションでスタートラインに立てるように準備していきますので、応援よろしくおねがいします。

鈴木康史

WOCセクション2戦目の前日の夜、高崎のホテルの一室で、ラグビー日本代表の桜のジャージが無惨に圧倒されているのを見ながら、ふと気付きました。もしも明日落ちたら、これから2か月のトレーニングがいらぬ、ということに。またもや喪失感が私を襲います。2年以上も前に、本気でWOCに出ようと決心して、ただ8月のドイツでのレースに向けて、長い時間をかけて準備を進めてきたのに、それが最後の最後でできなくなってしまうのです。このことに気付いた私の膝は、第2戦のスタート枠で震えていました。こんなことは久々のことです。

だから、今は、その準備が完成できるということが嬉しくてなりません。自分自身、今まで、代表に見合うだけの準備をしてきたという自信はありますし、故に、代表に選ばれたのは、当然と思っています。だから、選ばれて嬉しいという気持ちはほとんどなくて、ただ、あと2か月かけて、自分の準備を完成させられる、ということに、子供のようにワクワクとしています。

出走前に勝負の90%が決まっていると言います。とすれば、もう今の時点で、もう80%ぐらいは結果は決まっているでしょう。私自身、どのような結果が出せようかは、今の時点でほぼイメージできます。しかし、それでは周りの皆さんはもちろん、自分も面白くありません。私はあと2か月で、このイメージを打ち破りたいと思います。わかっている自分ではなく、知らない自分を探してゆく、人生でこれに勝る苦しみと楽しみがありませんか？

すばらしい2か月が過ぎそうです。



5/28 トリathlon・鈴木選手のゴール

代表選手の抱負（女子）

富士淑子

3回目のWMになります。今回はチーム全体が若返り、過去2回とはまた違った新鮮な気持ちでWMに臨めそうです。若返ったと感じるのは自分が年をとったせい、と言われてしまいましたが、WM91以来、5年が経ちました。レースの方は3度目の正直となるか・・・とにかく実のある結果を残してきたと思っています。クラシカル、ショート共予選を通過しない限り決勝（B、Cファイナルがない）を走れないため苦しい面がありますが、予選通過は本気で狙わない限り越えられない壁とこのを前回強く感じたので、現実的な目標として挑戦したいです。リレーは、4人が4人も最高のパフォーマンスをして、どれくらい戦えるのかを試してみたい。今回のメンバーは実力的に粒がそろっているのでは誰がどのレースに出ても代表としての成績は残せる気がしています。

個人的には、ここ2年程リズムを崩し、一時期は苦しくて競技を楽しめなくなっていました。もがけばもがくほど自信を失うような状態で、選考会にでることさえ危うかったことを考えると、こうして再び世界の舞台に挑戦できることは夢のようです。これまでいろいろな方に励ましていただき、本当に感謝しています。

選ばれた瞬間は、信じられない気持ちと震えるような嬉しさでいっぱいでしたが、これまでの遠征を通じて思い知らされている世界との実力差、そして残された準備の時間と今の自分の実力を考えると冷静にならざるを得ません。たとえ世界の壁に当たって砕けるにしても、勝負できるだけの準備をし、本番できちんと実力を出せる“力”をつけて臨みたいと思います。苦しい後には良い事もある！（はず？）と信じ、ドイツの森を満喫していきます。応援よろしくおねがいします。

田島利佳

精神的に不安定な一年でしたが、たくさんの人の応援と励ましでOLを続けることができました。本当に感謝しています。これからの2ヵ月間10キロは集中力をもってスピードを落とさず走ることが課題です。本番は、どこまで力をひきだせるかが目標となります。



5/28 セレクション・ゴール地点
1位通過が決まった直後の田島選手

金田収子

今年に入って故障をかかえてから、自分の状態を考えてレースをするようになりました。セレクション第2戦もカゼで体調が悪かったので、無理はせず、しかし絶対にミスをしたくないことを心がけ、体力的に楽なルート、走れなくても速いルートを考えながら、レースをしました。小さくまとめることで、高い目標であった世界選手権への出場権を得ることができました。しかし、本番ではこの方法を使いたくありません。大きな大きな世界の舞台で、当たってくださるの精神でスピードにのった楽しいオリエンテーリングをしたいと考えています。

2年前、オフィシャルとして参加した世界選手権に行くことができ夢のようですが、大先輩方に教を請い、たくさんのものを吸収したいと思います。応援よろしく願い致します。

金子しのぶ

2年前のアメリカの世界選手権が終わってから、今年のドイツの世界選手権をずっと目標にしてきました。それなのに、セレクションの第2戦目は情けないレースをしてしまい、とても反省をしています。推薦をして頂き、世界選手権に出場できることになり、本当に嬉しく思っています。このチャンスを無駄にしないよう、世界選手権本番に向かって、体調をしっかりと整えていきたいです。目標は、リレーでビリから4番目以上になること（前はビリから3番目だったので）です。この2年間の思いを全てぶつけて、最高のレースをしてきます。みなさん応援よろしく願い致します。



WM95日本代表選手団。前列向かって右から木植早生選手・大西真理子アシスタントマネージャー・金田収子選手・田島利佳選手・福士淑子選手・金子しのぶ選手・吉田勉女子コーチ。後列向かって右から、藤井範久ジュニアマネージャー・入江崇選手・鈴木康史選手・加賀屋博文選手・鹿島田浩二選手・村越真選手。

O-JAPAN6月号の発行が遅れたため（この7月号の原稿完成時点でまだ6月号も発行されておりませんので）、読者の皆様には、日本代表選手の選考結果をお知らせするのがたいへん遅くなってしまいました。次号では選手団を社行するイベントの様子をご報告します。久々の強化選手紹介（金田収子選手）にもご期待ください。

1995.6.29

SQUAD広報担当 桐田幸宏

The Orienteering World's Scape

S. Murakoshi

熊との遭遇

6月18日に赤城（本年東大大会）のトレインで行った世界選手権合宿で、ばっちり熊に遭遇してきました。都合4匹は存在が確認されていますが、私が遭遇したのは、そのうちのいっぴきでした。20mくらい手前でみつけ、最初は犬かと思いましたが、一瞬で熊とわかりました。こんな時は逃げてはいけないんだという考えが一瞬頭をよぎった記憶がありますが、それ以前に身体の方が逃走を始めていました。大きさは人をひとまわり小さくしたくらいで、死の恐怖はなかったけれど、大怪我は免れないだろうなと思いました。互いに走り出してすぐに、相手の方がはるかに速いことがわかりました。こちらが転んだせいもあって、すぐに追いつかれました。

とにかく、顔をにらむ必要があると思えましたし、一方的にやられるのは嫌だ。狙うなら急所、そう眉間を狙うんだと、どこで仕入れたかわからないようなことも思いつき、パンチの準備をして顔をにらみつけました。結構とっさにいろいろ考えるものです。この時の熊との距離は1.5mくらいです。で見た目あまり大きくないので、うまくすれば痛みわけくらいにはもちこめるんじゃないかなという気がして気合いを入れたら、むこうがウォーンとうなって、逃げてくれました。やっぱ、気合いですよ、気合い。

で、こっちも動物としての本能をかき立てられて、ウォーン、ウォーンとほえてしまいました。追い散らすっていう理性の介在したものというより、獣どうしの喧嘩で勝った方が雄叫びをあげるという、まさにそんな感じですよ。

その後鈴木康史は、親子連れに熊に遭遇しています。ふつう子連れは危ないといいますが、熊の世界にもいろいろな母親がいるもので、この熊はまっ先に逃げ、パニックにはまった子熊がきゃーきゃー泣きながら、後を追いかけていったそうです。

熊が目撃されたというトレインはいくつか聞いています（たとえば日光の所野）が、実

際に熊が出たのは始めてで、ましてや自分が遭遇するのも始めてでした。今回は幸いなことに怪我もなく練習を終えましたが、結構きわどい生還だったのかもしれない。あるいはもともとそんなに危険のないものなのかな。生物学の知り合いによれば、本州の月の輪熊はそれほど猛猛ではなく、上から見おろすようににらみつければ、だいたい向こうが逃げる、こちらが逃げるのは最悪と言われました。オリエンテーリングだと出会い頭にばったりというケースは少ないと思いますので、怖くてもまずはにらむことでしょう。

JOA中・長期計画について

JOA理事会では、これまでの一貫性と将来展望のない活動状況を反省し、中・長期アクションプラン（案）を検討しているようです。このプランは、今後組織が取り組むべき課題・活動を明確に提示するもので、プランに対する意見等を組織関係者・オリエンティアから求めています。本プランの担当理事は静岡県協会理事長で、JOA理事の坂本氏で、ご意見をお持ちの方は坂本氏までご連絡ください。なおこのプランはOL静岡号外に織り込まれており各県協会に発送されますが、入手希望の方は村越まで返信用封筒に80円切手を張ってお送りください。およその内容は、

1: 国際関係

1) 上部団体との関係 10年間のみぞを埋める、信頼関係を作る、スコードを取り込み、委員会組織の一部とする、定期的国際大会開催、長野スキーOL大会開催

2) 近隣 情報交換、指導

2: 組織強化

1) 事務局業務の見直し

理事会のあり方検討、このビジョンの各項目に対応した委員会の設置、学連との連携強化、公認指導員制度みなおし（メリットづくり、質向上、制度・養成方法の見直し）

3) 認定クラブ見直し

4) 大会運営レベルアップ

3: 財政基盤確立

1) 補助金受け入れ

4: 広報活動

1) 機関誌発行

2) マスコミ対応

5: その他

村越 真: 清水市折戸1-20-11-31,
0543-34-9754坂本太郎: 410-23田方郡大仁町大仁4
86-9オリエンテーリング・フェスティバル'95 in
静岡

静岡県協会では、6月10・11日の両日、富士市の少年自然の家を中心に表記イベントを開催しました。この企画は、県協会が毎年行っている総会、研修会等を一度に集めておこなうことで、より多くの人々に参加してもらおうとともに、他の地域のオリエンティアとの交流の場となることを願って行ったものです。

10日の研修会・懇親会には県外を含めた約40人が参加し、競技力向上、普及、環境についての3つのワークショップに別れて、講師の話しを聞いたり、それぞれの体験・意見の交換を行った。競技・普及に関しての研修会はこれまでも開催されてきたと思うが、環境についての情報提供・意見交換の場は始めてではないだろうか。ふだんから森を使い、森がなければ成立しないわりには、オリエンティアの森や自然に対する知識は乏しい。広島では、利用したトレインのそばでの雪おこしを、クラブ員が毎年手伝っているという。使わせてもらうだけでなく、森をよく知り、その維持管理に関わっていくことも、今後のオリエンテーリングには重要な活動となると思う。

また普及のセッションでは、私たちがオリエンテーリングのあるべき姿に固定観念（たとえば、藪のトレインでは面白くない、地図は毎回ニューでない・・・）を持っていることが、オリエンテーリング活動に制約を与え、結果として普及を阻害しているのではないかという問題点が指摘された。人口を増やすのが普及の大きな目的ではあるが、そこへのプロセスとして、より多くの人々が気軽に参

加できる大会をおこなうこと、それを通してオリエンテーリングの正しいイメージを定着させることも重要であることが指摘された。

こうした指摘を今後のフェスティバルの運営方向の参考にしてゆきたい。

静岡県ウィークエンドチャレンジ

静岡県OL協会では、本年「富士愛鷹」西部で、以下の日程でウィークエンド・チャレンジ（記録会）を開催します。これは、7月30日から8月27日まで設置された常設コントロールを利用した記録会です。ウィークデーは、全コントロールを合宿・自主練習等に利用することができます。また下記日程で記録会を開催します。記録会では同一コースが提供されているので、別の日に走った人と結果を比較検討することも可能です。全ての回の記録を集計して成績表が作成・送付されます。またラップタイムを計り、申告すれば、世界選手権代表選手のラップタイムと比較することも可能です。

この常設コースの設置にともなって富士愛鷹は、今夏は全コントロール図（300円）のみ販売します。また愛鷹西部（ふじと重なっていない部分では、パンチ台を新たに設置することはご遠慮ください。合宿の多い富士地区での合宿運営への便宜と、日頃練習する機会の少ない個人オリエンティアへの練習機会提供をはかった試行ケースです。好評であれば、来年度以降の実施も検討します。なお本記録会は、100kmコンペの対象となります。

受付: 村山ジャンボ（毎回9時から11時まで、第3回は1時から3時まで）

参加費: BCは500円、Aは700円（ともに成績表を含む。Aコースについてはトップランナーとのラップの比較を含む分析結果も掲載）

全コントロール図、各コース図: 1枚300円

問: 地図入手2ツ行: 水野元夫0534-34-5587

全般について: 村越真0543-34-9754

会場/交通手段: 村山ジャンボ* 0544-27-84

静岡県協会のページのようになってしまいましたね。次回提供できる時には、もっと幅広いニュースを提供します。

平成7年度 東日本OL大会

平成7年度(第21回)東日本オリエンテering大会が、下記のとおり開催されます。

- ・開催日 平成7年10月15日(日)
- ・場所 富山県大沢野町
(猿倉コミュニティセンター集合)
- ・主管 富山県オリエンテering協会

富山県で開催される初めてのビッグ大会であり、分からないことがいろいろとありましたが、最近公認大会を開催された県や隣県の方々のご意見ご指導を受けながら準備を進めてきました。

地図については、富山県側で基礎的な調査をしたのみであり、残りの大部分の調査とコース設定については、R. M. O-サーブスの山川さんに依頼しているところです。

競技役員については、現在40~50名程度予定していますが、ビッグ大会を運営するには人数が不足しています。現在、運営の省力化を検討しているほか、大会参加者からのボランティアを募集したいと考えています。ボランティアについては、競技が終了した後都合のつく時

間までに速報掲示や会場整理などの業務を行なっていただきたいと思います。(謝礼として各地図を差し上げる予定にしております。ボランティアを希望される場合は、当日でも結構です。本日までお越しください。)

大会要項については、7月上旬から各都道府県協会やクラブへお送りしていますが、万が一まだ入手されていない場合には、富山県OL協会事務局までご連絡願います。(80円切手を貼付し宛名を明記した定形最大の封筒をお送りいただければ幸いです。)個人クラスの参加申込期間は8月7日(月)~15日(火)≦消印有効(厳守)≧となっていますので、ご注意ください。

なお、要項の「トリム-0の参加について」欄の申込・問合せの住所および電話番号に誤りがありましたので、次のとおり訂正願います。

(誤) 〒939 TEL 045-201-1111 内線7379
↓
(正) 〒939-03 TEL 0766-56-7500

また、東日本大会前日の10月14日(第2土曜日)には、富山県大山町において「第2回富山大学大会」が開催されます(12時以降スタート予定)。せっかく富山県にお越しになるのでしたら、東日本大会の調整も兼ねて参加されればいかかでしょうか。近くには、日本一の

落差(350m)を誇る称名滝や高度差500mもある悪城の壁など風光明媚な観光スポットもあります。

富山県にお越しになるときは、JRのほか幾つかの交通手段がありますので、参考にしてください。

- ・飛行機(東京6往復、札幌1往復、名古屋2往復、福岡1往復)
- ・高速バス(東京3往復、大阪1往復)
- ・マイカー(富山ICまで=練馬IC 433km、吹田IC 343km、名古屋IC 314km)

最後に、ご家族ご友人等を多数お誘いのうえぜひ東日本大会にお越しくださいますよう、お待ちしております。

お問い合わせは、
《富山県OL協会》
〒939-03

富山県射水郡小杉町黒河5180
富山県立大学短期大学部 玉木研究室内
玉木 興正 TEL 0766-56-7500

または

〒939-27
富山県婦負郡婦中町宮ヶ島 141-5
山口 敏夫 TEL 0764-66-3288

文責：山口 敏夫

埼玉県オリエンテering協会からお知らせ

1. 平成7-8年度 協会役員

- 会長：玉井 康司
- 副会長：卜部 茂、藤巻 孝之、山口 征矢
- 事業部長：萩田 育徳
- 事務局：高村 卓
- 監事：山西 一徳、榊原 一四
- 登録更新担当：片柳 靖夫
- 大会担当：小林 慎哉、中山 勝
- 選手強化担当：吉田 勉
- 講習会担当：徳永 重明、飯島 強
- PC担当：甲田 敏夫

埼玉県に関する問い合わせ、申請等は次の事務局まで

郵送先 〒362 上尾市大字上828-14
高村 卓 気付
TEL & FAX 048-776-8439へ

2. 埼玉県選手登録について

埼玉県選手として、全日本リレーOL選手権大会に参加してみませんか。

チーム強化と埼玉県オリエンテering団結のため、7年度より選手登録制を敷くことになりました。皆様の登録を待っています。事務局までご連絡ください。

登録資格：全日本リレーOL大会に準じます
登録料：3000円《連絡費と選考レース運営費(選考会参加費を含む)》
登録締切：1995年7月31日(月)
代表選手の特典(補欠選手も含みます)

- (1)全日本リレー参加費の免除。(補欠に回った場合の一般クラスも含む)
 - (2)選考後の合宿・練習会の参加費免除。(交通費・宿泊費は自己負担)
 - (3)協会員については当日宿泊費の一部補助。
- 詳細、申込先・問い合わせ先については協会事務局までご連絡ください。

3. 埼玉県PC巡り

コンテスト大会について
朝日OL大会に協賛し、この4月1日から実施いたしております。お陰をもちまして6月現在30件の応募があり、約50人程度の登録をさせていただいております。

現在、全コース制覇の皆様には協会特製の盾を贈ろうと考えています。是非、朝日大会の会場で受け取られますよう、コースの踏破を目標してください。

なお、コンテストマークを各コースに貼付いたしました。心無い人のためにマークを剥がされたポストが多くあります。見回りも追いつかずご迷惑をおかけいたします。(OL虫・朝日の社旗・貼付ポストを標したテブラのテープ)いずれも無かったときは、マークが無いと明記してご応募をお願いいたします。

埼玉県オリエンテering協会
事務局 高村 卓

[編集部より] ◆先月は会社の膨大な仕事をかかえながら購読更新の整理(やっと取りかかれました)、おまけに地域の仕事などなど…が重なり、

一時体調を崩し、さんざんな月でした。◆諸々の仕事を何とかオツツケて片づけ、どうやら今週末にカナダに出かけられそうです。休養を取

ってくる積りでも…。というわけで、今月はとりあえず12ヶ月で仕上げます。8月・9月は硬張りしますので、悪しからずお許しください。(流人)

O-JAPAN 発行人/田口 昭子
〒234 横浜市中区日野南7-9-5
TEL.045-891-7004 FAX.045-891-2500
分室=Annex TEL.0287-77-1977
NIFTY-Serve ID VYE01053
郵便振替口座(番号)00270-9-46870 (加入者名)O-JAPAN 編集部

購読料
'95.4月~'96.3月 ¥3,600
(高校生以下)95年度1年分 ¥2,400
クラブ代表者 95年度1年分 ¥3,000
1部あたり頒布価格 ¥300

編集責任者/田口 肇
Chief Editor:
Hajime Taguchi
Editorial Address:
7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
Yokohama, 233 Japan